

答 申（案）

茅ヶ崎市立小和田公民館における、これからの主催事業について

(1) 茅ヶ崎市立小和田公民館の地域特性や立地特性を踏まえた主催事業について

小和田公民館が立地する地域の特性として、①茅ヶ崎市立松浪小学校が近接しており小学生が気楽に立ち寄れる立地にある、②保育園や幼稚園が点在しており、若い世代が多く小さな子どもが多い、③決して有名ということでないが、地域（近隣を含む）の文化、歴史、自然、公共施設、民俗、人材などの地域のお宝（資源）が存在している、④大きな商業店舗は少ないが、商店街を活性化しようと若い力が出てきている、といったことが挙げられます。

これらのことを踏まえ、次の視点による主催事業の実施を提案します。

- ① 小和田公民館は他の公民館と比較して、周辺の公共施設や地域団体と多くの共催事業を実施していると考えます。しかしながら、この地域には、多くの資源や人材が眠っており、十分に活用、活躍しているとは言い難い状況にあると感じています。より一層、有効に活用、活躍するには、公民館が単独で様々な事業を実施するだけでなく、コミュニティセンターをはじめとした地域の公共施設、さらには、青少年推進協議会や社会福祉協議会、商店会等の地域に根ざした団体と連携を図ることが重要であると考えます。このため、これまで以上に地域の公共施設や団体の声を聞くとともに、積極的に共催事業を実施する（増やす）ことを提案します。
- ② 地域の資源を地域住民が認識し、次の世代へ繋いでいく、また地域の人材に公民館事業に関わってもらうことは非常に大切なことです。このため、このような地域の資源や人材を見つけるための仕組み作りを検討するべきだと考えます。例えば、公民館主催のワークショップの開催や意見箱の設置が挙げられます。

(2) 持続的に地域が活性化し、地域力が向上するような次世代を育成する主催事業について

幼児から高齢者まで公民館で活動することを通して、本人が気付いていなくても、一人ひとりの成長には結びついていると考えます。地域住民が公民館での体験を通じて成長し続けることが地域の活性化、地域力の向上に結び付き、公民館がこの地域にある意義の一つだと考えます。

次世代を育成する事業を通して、他人やチームの一員としての協調性、忍耐力、継続することの素晴らしさ、あきらめないことの大切さ、相手を思いやる優しさ、それぞれの違いを理解し認めあう包容力、いろいろな事に感動したり悲しんだりする感性の豊かさ、目標を立てる実行力、夢を持つ素晴らしさ、食物を育て収穫し、食して食の大切さを実感する、自然の偉大さ、国際性、社会の矛盾等を学び、学校教育を補完するような体感・体験ができることはとても重要なことです。

また、若年層（高校生から大学生の年代）は、現実的に公民館への関わりが一番少ない年代となりますが、この年代は将来の地域活動の担い手となることから、未就学児から小中学生、大人、シニアまで切れ目のない事業を展開し、この世代が参加しやすい環境をつくることが大切であると考えます。

これらのことを踏まえ、公民館がこれまで実施している事業を継続するとともに、次の視点による主催事業の実施を提案します。

- ① 核家族化が進み、兄弟姉妹の数も少ない現代の子供たちに、社会には自分よりずっと小さくて弱い存在がある事を勉強する機会を提供し、小中学生の成長を促すことが大切です。このため、小中学生を対象にボランティアの講座を開き、最終的には地域にある幼稚園や保育園にボランティアとして訪問するという事業の実施を提案します。
- ② 若年層については、この年代を対象とした事業を開催しても、受講生としては、なかなか参加が見込めない現実があるのも事実だと感じています。このことから、近隣の高等学校や大学の協力をいただきながら、受講生としての参加ではなく、未就学児や小学生、さらには大人やシニアを指導する立場としての参加を促すような事業の実施を提案します。

(3) その他

① 情報発信について

公民館では、ホームページやポスター掲示、地域への回覧等、様々な手法で情報を発信していると認識しています。しかし、地域への回覧を見ても、非常に多く配布物がされており、特徴がないと目にしてもらえない可能性が大きくなります。このため、印刷物のカラー化など、少しでもアピールできる工夫を提案します。

③ アンケート・事業評価について

公民館では、事業ごとにアンケートを実施していると認識していますが、その結果を評価し、次に繋げることが大切であると考えます。これまでも、アンケート結果を基に次の事業に活かしているとは思いますが、例えば、アンケートの集計結果を審議会に提示し、意見を聞くような機会を設けることを提案します。